

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2023.7.3-7.9

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

6:8 さて、ステパノは恵みと力に満ち、人々の間で大いなる不思議としるしを行っていた。

6:9 ところが、リベルテンと呼ばれる会堂に属する人々、クレネ人、アレクサンドリア人、またキリキヤやアジアから来た人々が立ち上がって、ステパノと議論した。

6:10 しかし、彼が語るときの知恵と御霊に対抗することはできなかった。

6:11 そこで、彼らはある人たちをそそのかして、「私たちは、彼がモーセと神を冒すことを語るのを聞いた」と言わせた。

6:12 また、民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、ステパノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。

6:13 そして偽りの証人たちを立てて言わせた。「この人は、この聖なる所と律法に逆らうことを語るのをやめません。

6:14 『あのナザレ人イエスは、この聖なる所を壊し、モーセが私たちに伝えた慣習を変える』と彼が言うのを、私たちは聞きました。」

6:15 最高法院で席に着いていた人々が、みなステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いの顔のように見えた。

7:1 大祭司は、「そのとおりなのか」と尋ねた。

7:2 するとステパノは言った。「兄弟ならびに父である皆さん、聞いてください。私たちの父アブラハムがハランに住む以前、まだメソポタミアにいたとき、栄光の神が彼に現れ、

7:3 『あなたの土地、あなたの親族を離れて、わたしが示す地へ行きなさい』と言われまし

た。

7:4 そこで、アブラハムはカルデア人の地を出て、ハランに住みました。そして父の死後、神はそこから彼を、今あなたがたが住んでいるこの地に移されましたが、

7:5 ここでは、足の踏み場となる土地さえも、相続財産として彼にお与えになりませんでした。しかし神は、まだ子がいなかった彼に対して、この地を彼とその後の子孫に所有地として与えることを約束されました。

7:6 また、神は次のように言われました。

『彼の子孫は他国の地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。』

7:7 また、神は言われました。『彼らが奴隷として仕えるその国民を、わたしはさばく。それから彼らは出て来て、この場所でわたしに仕えるようになる。』

7:8 そして、神はアブラハムに割礼の契約を与えられました。こうして、アブラハムはイサクを生み、八日目にその子に割礼を施しました。それからイサクはヤコブを、ヤコブは十二人の族長たちを生みました。

ステパノは「御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人」ということで選ばれた奉仕者であって、リーダーではありません。普通の信徒です。しかし信仰はその人の立場によって決まるものではありません。主の栄光を表すのには、牧師も信徒も、またリーダーもメンバーも立場は関係ないのです。

「恵み」とありますから、ステパノはただ独善的に正しい考えを発していたのではなく、人々に恵みを与えてまたは神様の恵みを感じられるようにして、その働きと交わりをしていたものと思われます。また「知恵」とありますから、よく学んでいたと思われます。また洞察に富んでいて人々が納得できるような発案もあったかも知れません。

どれも御霊によるものです。聖霊を求めていきましょう。

そのようなステパノですから「すばらしい…わざ」ができました。人々が彼を通して信仰へと、幸いへと、また親しさへと変えられていったことでしょう。また「不思議なわざ」とあります。これは神様のみわざ以外には考えられないというような出来事が彼を通して起こったのだと思われます。どうせ主のために生きるなら、そのような奉仕者になりたいと思います。

ステパノにも反対者がいました。教会の外には「訴え」や「批判」が存在することもあるのですが、私たちは表面だけを見て「トラブルが起きた。当事者に問題がある」と考えないで、主がどのように働いておられるかを考える必要があります。

またもしも主のためにしていることで批判的に「訴え」られたなら、人を恐れることなく主のみこころを第一に考えていきたいものです。そしてこのステパノのように、怒りや恐れに支配されることなく、「御使いの顔のように」見えるほどに輝いて対応していきたいものです。

ステパノの主張は救済の歴史から見て非常に重要なものです。それまで「イスラエル中心、神殿中心であって、ユダヤ人のための神である」と考えられていた信仰を、ステパノは全世界の神であり救いであると主張したのでした。

- ①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④この世にあって何を実践しますか？

4日 火曜

使徒



7:9 族長たちはヨセフをねたんで、彼をエジプトに売りとばしました。しかし、神は彼とともにおられ、

7:10 あらゆる苦難から彼を救い出し、エジプト王ファラオの前で恵みと知恵を与えられたので、ファラオは彼をエジプトと王の全家を治める高官に任じました。

7:11 すると、エジプトとカナン的全地に飢饉が起り、大きな苦難が襲って来たので、私たちの父祖たちは食べ物を手に入れることができなくなりました。

7:12 しかし、ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、まず私たちの父祖たちを遣わしました。

7:13 二度目のとき、ヨセフは兄弟たちに自分のことを打ち明け、ヨセフの家族のことがファラオに明らかになりました。

7:14 そこで、ヨセフは人を遣わして、自分の父ヤコブと七十五人の親族全員を呼び寄せました。

7:15 こうして、ヤコブはエジプトに下り、そこで彼も私たちの父祖たちも死にました。

7:16 彼らはシェケムに運ばれ、かつてアブラハムがいくらかの銀でシェケムのハモルの子らから買っておいだ墓に、葬られました。

7:17 さて、神がアブラハムになされた約束の時が近づくにしたがい、民はエジプトで大いに数が増え、

7:18 ヨセフのことを知らない別の王がエジプトに起こる時まで続けました。

7:19 この王は、私たちの同胞に対して策略をめぐらし、私たちの先祖たちを苦しめて幼子を捨てさせ、生かしておけないようにしまし

た。

7:20 モーセが生まれたのは、このような時でした。彼は神の目にかなった、かわいい子で、三か月の間、父の家で育てられましたが、

7:21 ついに捨てられたのをファラオの娘が拾い上げ、自分の子として育てました。

7:22 モーセは、エジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにも行いにも力がありました。

7:23 モーセが四十歳になったとき、自分の同胞であるイスラエルの子らを顧みる思いが、その心に起こりました。

7:24 そして、同胞の一人が虐待されているのを見て、その人をかばい、エジプト人を打ち殺して、ひどい目にあっていて人のために仕返しをしました。

7:25 モーセは、自分の手によって神が同胞に救いを与えようとしておられることを、皆が理解してくれるものと思っていましたが、彼らは理解しませんでした。

7:26 翌日、モーセは同胞たちが争っているところに現れ、和解させようとして言いました。『あなたがたは兄弟だ。どうして互いに傷つけ合うのか。』

7:27 すると、隣人を傷つけていた者が、モーセを押しのけながら言いました。『だれがおまえを、指導者やさばき人として私たちの上に任命したのか。』

7:28 昨日エジプト人を殺したように、私も殺すつもりか。』

7:29 このことばを聞いたモーセは逃げて、ミディアンで寄留者となり、そこで男の子を二人もうけました。

イスラエル人が主張するように確かにアブラハムに神が現れて、彼の子孫がイスラエルになりました。しかし、神はアブラハムがイスラエルの国であるカナンに行く前から、現れておられたのです。すなわち信仰はイスラエルの地が中心ではないということです。

さらにイスラエルの子孫はエジプトという別の地に寄留していたのですが、そこでも神はみわざを表されました。神様は国土や地域に限定される方ではないのです。何よりも、神様はアダムとエバに、罪からの救いを約束しておられます。すなわちイスラエルが存在するはるか以前です。

私たちも、主は場所や血筋に限定される方ではないということを確認しましょう。すなわち全能の主であるということを確認に信じましょう。そして全ての人へ福音を広めるように、進んでいきましょう。

さらにステパノはモーセのことに言及します。彼もまたアブラハムと同様にイスラエルの人々にとっては信仰の勇者であり、模範です。しかしこのモーセも、イスラエル人のブライトを保てるような人生ではありませんでした。モーセはイスラエル人がみじめな奴隷状態の中で生まれました。また彼は純粋にイスラエル人として育ったのではなく、エジプトの王位パロの娘の子としてエジプトのことを学びつつ育ったのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

5日 水曜

使徒



7:30 四十年たったとき、シナイ山の荒野において、柴の茂みの燃える炎の中で、御使いがモーセに現れました。

7:31 その光景を見たモーセは驚き、それをよく見ようとして近寄ったところ、主の御声が聞こえました。

7:32 『わたしは、あなたの父祖たちの神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。』モーセは震え上がり、あえて見ようとはしませんでした。

7:33 すると、主は彼にこう言われました。『あなたの履き物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である。』

7:34 わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを確かに見た。また彼らのうめきを聞いた。だから、彼らを救い出すために下って来たのだ。今、行け。わたしは、あなたをエジプトに遣わす。』

7:35 『だれがおまえを、指導者やさばき人として任命したのか』と言って人々が拒んだこのモーセを、神は、柴の茂みの中で彼に現れた御使いの手によって、指導者また解放者として遣わされたのです。

7:36 この人が人々を導き出し、エジプトの地で、紅海で、また四十年の間荒野で、不思議と行いました。

7:37 このモーセが、イスラエルの子らにこう言ったのです。『神は、あなたがたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたがたのために起こされる。』

7:38 また、モーセは、シナイ山で彼に語った御使いや私たちの先祖たちとともに、荒野の集会にいて、私たちに与えるための生きたみ

ことばを授かりました。

7:39 ところが私たちの先祖たちは、彼に従うことを好まず、かえって彼を退け、エジプトをなつかしく思って、

7:40 アロンに言いました。『われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から導き出した、あのモーセがどうなったのか、分からないから。』

7:41 彼らが子牛を造ったのはそのころで、彼らはこの偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造った物を楽しんでいました。

7:42 そこで、神は彼らに背を向け、彼らが天の万象に仕えるに任せられました。預言者たちの書に書いてあるとおりです。『イスラエルの家よ。あなたがたは荒野にいた四十年の間に、いけにえとささげ物を、わたしのところに携えて来たことがあったか。』

7:43 あなたがたは、モレクの幕屋と神ライパンの星を担いでいた。それらは、あなたがたが拜むために造った像ではないか。わたしはあなたがたを、バビロンのかなたへ捕らえ移す。』

7:44 私たちの先祖たちのためには、荒野にあかしの幕屋がありました。それは、見たとおりの形に造れとモーセに言われた方の命令どおりのものでした。

7:45 私たちの先祖たちは、この幕屋を受け継いで、神が自分たちの前から追い払ってくださった異邦の民の所有地に、ヨシュアとともにそれを選び入れ、ダビデの時代に至りました。

7:46 ダビデは神の前に恵みをいただき、ヤコブの家のために、幕屋のとどまることを求めました。

7:47 そして、ソロモンが神のために家を建てました。

7:48 しかし、いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。預言者が語っているとおりです。

7:49 『天はわたしの王座、地はわたしの足台。あなたがたは、わたしのためにどのような家を建てようとするのか。——主のことば——わたしの安息の場は、いったいどこにあるのか。』

7:50 これらすべては、わたしの手が造ったものではないか。』

さらにモーセはイスラエル人として立つたのに失敗しました。しかもイスラエルの共同体から遠く離れたミデヤンの地で神の召しを受けたのです。

ここでも神は、イスラエルのプライドを保つために存在する方ではないことがわかります。それは私たち人間のプライドも同じです。自分は特別という思いがあったなら悔い改めましょう。ただ神様の力を頼りとしましょう。

36節あたりからステパノは、イスラエルの民の罪と不信仰について言及します。イスラエル人は自分たちがアブラハムの子孫であって救われるべき民とと思っていましたし、神殿のあるエルサレムとその国イスラエルが信仰の中心と思っていたが、ステパノはその選民意識を覆すだけでなく、不信仰と罪を批判したのです。プライドを捨てましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）③生き方にも適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）④この世にあって何を実践しますか？

6日 木曜

使徒



7:51 うなじを固くする、心と耳に割礼を受けていない人たち。あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖たちが逆らったように、あなたがたもそうしているのです。

7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって告げた人々を殺しましたが、今はあなたがたが、この正しい方を裏切る者、殺す者となりました。7:53 あなたがたは御使いたちを通して律法を受けたのに、それを守らなかったのです。」7:54 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ざしりしていた。

7:55 しかし、聖霊に満たされ、じっと天を見つめていたステパノは、神の栄光と神の右に立ておられるイエスを見て、

7:56 「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立ておられるのが見えます」と言った。7:57 人々は大声で叫びながら、耳をおおい、一斉にステパノに向かって殺到した。

7:58 そして彼を町の外に追い出して、石を投げつけた。証人たちは、自分たちの上着をサウロという青年の足もとに置いた。

7:59 こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで言った。「主イエスよ、私の霊をお受けください。」

7:60 そして、ひざまずいて大声で叫んだ。「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、彼は眠りについた。

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対

する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。

8:2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のためにたいへん悲しんだ。

8:3 サウロは家から家に押し入って、教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入れた。

8:4 散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。

8:5 ペリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

8:6 群衆はペリポの話を聞き、彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、そろって関心を抱くようになった。

8:7 汚れた霊につかれた多くのの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒やされたからである。

8:8 その町には、大きな喜びがあった。

ステパノなぜこのような攻撃的になるようなことを言ったのでしょうか。彼は反抗的な心情があったのでしょうか。そうではありません。彼の心は「この罪を彼らに負わせないでください。」という愛に満ちていたのです。彼は本当の救いを人々に伝えたかったのです。それも命をかけて。救いはイスラエルに限定するものではない。神の十字架の愛は全人類のためにあるということを伝えなければならぬという決意です。

(最近一部の指導者が、「イスラエルが中心」神はイスラエルを救おうと考えたが、拒絶されたので、はからずも全人類が救われた」というように、新約以前の解釈をあたかも最新であるかのように主張しているようです。イスラエルの人々を愛して宣教することは尊いことです。しかしイエス様が全人類のために十字架にかかれた

ことを曲げてしまってはなりません。またステパノが命と引き換えに言明したことを、逆に引き戻すようなことがあってはなりません。)

私たちは何よりも尊い価値観を持っています。それは神様の永遠の愛のために生きるということです。ステパノのような最後は特別かもしれませんが、しかし私たちも最後まで忠実に、また神様の栄光と愛を表していきたいものです。

8章からパウロが出てきます。サウロは後のパウロです。彼はすばらしい神様の働きをした使徒でしたが、初めは迫害者だったのです。誰でも主にも主にも変えられることができるのです。あきらめずに伝道しましょう。それがまだ無理なら祈り続けましょう。

教会に迫害が起こり、人々は生活でもできなくなりました。信仰がなければ、または単なる公益信仰ならば、伝道どころではないと思うでしょうが、クリスチャンは違います。主が守ってくださるもので生活のことは安心して、主のご計画に進むことができます。それこそが迫害の意図でもあると理解したのだと思われます。

私たちも苦しいことが起きたなら、そこには主の意図があるのだと理解しましょう。その目的が成されれば、苦しさの何倍もの祝福で主は満たしてくださいます。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

8:9 ところで、以前からその町にはシモンという名の人がいた。彼は魔術を行ってサマリアの人々を驚かせ、自分は偉大な者だと話していた。

8:10 小さい者から大きい者まで、すべての人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、『大能』と呼ばれる、神の力だ」と言っていた。

8:11 人々が彼に関心を抱いていたのは、長い間その魔術に驚かされていたからであった。

8:12 しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。

8:13 シモン自身も信じてバプテスマを受けると、いつもピリポにつき従って、しるしと大いなる奇跡が行われるのを見ては驚いていた

8:14 エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところに遣わした。

8:15 二人は下って行って、彼らが聖霊を受けるように祈った。

8:16 彼らは主イエスの名によってバプテスマを受けてただけで、聖霊はまだ、彼らのうちのだれにも下っていなかったからであった。

8:17 そこで二人が彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

8:18 シモンは、使徒たちが手を置くことで御霊が与えられるのを見て、使徒たちのところに金を持って来て、

8:19 「私が手を置く者がだれでも聖霊を受けられるように、その權威を私にも下さい」と言った。

8:20 しかし、ペテロは彼に言った。「おまえの金は、おまえとともに滅びるがよい。おま

えが金で神の賜物を手に入れようと思っているからだ。

8:21 おまえは、このことに何の関係もないし、あずかることもできない。おまえの心が神の前に正しくないからだ。

8:22 だから、この悪事を悔い改めて、主に祈れ。もしかしたら、心に抱いた思いが赦されるかもしれない。

8:23 おまえが苦い悪意と、不義の束縛の中にいることが、私には見えるのだ。」

8:24 シモンは答えた。「あなたがたが言ったことが何一つ私の身に起こらないように、私のために主に祈ってください。」

8:25 こうして、使徒たちは証しをし、主のことばを語った後、エルサレムに戻って行った。彼らはサマリア人の多くの村で福音を宣べ伝えた。

シモンという魔術師は、人々を驚かしていたので、実際に不思議なことができたのでしょう。主はときにはそれ以上の不思議で、人々をもっと驚かせてご自分の力を示されます。しかしここでは不思議を見て信じたというよりも、「神の国とイエス・キリストの御名について」聞いて、信じたということです。

人の心に響く神のことばは、魔術よりも力があるのです。人々が本当に求めているのは、生きる意味であり、将来の希望であり、罪からの解放なのです。福音にこそ自信を持ちましょう。

シモンは信じてバプテスマを受けたのですが、まだ聖霊については分っていなかったようです。何か見えない力くらいに思っていたのでしょう。お金で手にいれようとしてしまいました。お金に限らず、救われる前の価値観は信じた後も残るものです。「不義のきずなの中にいる」ということです。

彼の良いところは、すぐに悔い改めて、「私の

ための祈ってください。」と懇願したことです。人は救われる前の経験や力を持続けていたいものです。しかし、それは目的も力の出所も別のものであります。ですから、それを主に1度ささげて手放して、その上で主が与えてくださるなら受け取りましょう。そうすれば全ては無駄にならず、祝福されて主のお役に立つことができます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 土曜

使徒



8:26 さて、主の使いがピリポに言った。
「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」そこは荒野である。
8:27 そこで、ピリポは立って出かけた。すると見よ。そこに、エチオピア人の女王カンダケの高官で、女王の全財産を管理していた宦官のエチオピア人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、
8:28 帰る途中であった。彼は馬車に乗って、預言者イザヤの書を読んでいた。
8:29 御霊がピリポに「近寄って、あの馬車と一緒に行きなさい」と言われた。
8:30 そこでピリポが走って行くと、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでいることが分かりますか」と言った。
8:31 するとその人は、「導いてくれる人がいなければ、どうして分かるでしょうか」と答えた。そして、馬車に乗って一緒に座るよう、ピリポに頼んだ。
8:32 彼が読んでいた聖書の箇所には、こうあった。「屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている子羊のように、彼は口を開かない。
8:33 彼は卑しめられ、さばきは行われなかった。彼の時代のことを、だれが語れるだろう。彼のいのちは地上から取り去られたのである。」
8:34 宦官はピリポに向かって言った。「お尋ねしますが、預言者はだれについてこう言っているのですか。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」
8:35 ピリポは口を開き、この聖書の箇所から

始めて、イエスの福音を彼に伝えた。
8:36 道を進んで行くうちに、水のある場所にきたので、宦官は言った。「見てください。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」
8:37 【本節欠如】
8:38 そして、馬車を止めるように命じた。ピリポと宦官は二人とも水の中に降りて行き、ピリポが宦官にバプテスマを授けた。
8:39 二人が水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られた。宦官はもはやピリポを見ることはなかったが、喜びながら帰って行った。
8:40 それからピリポはアゾトに現れた。そして、すべての町を通して福音を宣べ伝え、カイサリアに行った。

教会時代の伝道のあり方がここに表わされています。ピリポは主のみこころによって出かけました。私たちも主の御声を聞きましょう。みこころなのだと感じたならば、直ぐにその人のところに行きましょう。
主の語りかけは最後のチャンスです。この高官は帰る途上でしたから、ピリポが従わなければ、永遠に救われることはなかったのです。
伝道はその人のペースで行われます。ピリポは彼の移動に合わせて、走りました。
伝道は聖書からイエス・キリストについて教えることで成り立ちます。
ピリポのようにやってみましょう。そのような機会がないと思うなら、本当にやるつもりで、機会が与えられるように祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き、大祭司のところに行って、

9:2 ダマスコの諸会堂宛ての手紙を求めた。それは、この道の者であれば男でも女でも見つけ出し、縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

9:3 ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

9:4 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」

9:5 彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

9:6 立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならぬことが告げられる。」

9:7 同行していた人たちは、声は聞こえてもだれも見えないので、ものも言えずに立っていた。

9:8 サウロは地面から立ち上がった。しかし、目を開けていたものの、何も見えなかった。それで人々は彼の手を引いて、ダマスコに連れて行った。

9:9 彼は三日間、目が見えず、食べることも飲むこともしなかった。

この時、イエス・キリストの救いから最も遠くにいると思えたのが、サウロ（後のパウロ）であったでしょう。彼はステパノのむごたらしい殺され方を目撃しても、なおクリスチャンを迫害しました。エルサレムから逃れてダマスコまで生き延びた人々を

も容赦しないで追跡したのです。それは女性でも容赦しなかったという非人道的なやり方です。

彼には確信がありました。十字架に付けられて殺されるような者は神から呪われた者であり、実際にイエスは自分を神とすると冒涜を犯した者です。そのイエスが復活したと言いふらし、信仰しているような者たちは生かしておいてはならないという確信です。ですから彼の言動は変わるはずがありませんでした。

しかし、そこに主の介入がありました。天からの声です。人間には到底救われるはずがないというような人でも、主には不可能はありません。もちろんイエス様の十字架によって罪赦される必要が誰にもありますが…パウロ自身そのように明言していますが…私たちが思いもよらない導きで主は人を救いに招かれるのです。

ですからどんな人に対しても、救いをあきらめることはできません。その人の生涯を見て、あの人は救われていないはずだと決め付けることもできません。救いの希望を持ちましょう。

主はここですでにパウロに対して、教会がイエスと1つであることを表わしています。「なぜわたしを迫害するのか」「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」ということばです。教会を傷つけることはイエス様を傷つけることなのだとしらしましょう。ということは、教会を愛することはイエス様を愛することです。そのような健全な交わりを心がけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

